日刊 動労千葉

81.11.5

No. 887

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

右翼的労働戦線「統一」問題を考える

その4

労戦「統一」攻撃とは、一体何を意味するのか？

つぎに、労戦「統一」攻撃が一体何を意味するのか、について「統一推進会」の中心となっている日産・電力・鉄鋼など同盟・JC組合の実態を通してその反動的意図を暴露します。

日米安保体制の堅持・防衛力の整備―増強をさけぶ同盟

十一月一日、同盟は、来年一月の定期大会に提案する八二・八三年度運動方針の第一次案を明らかにしました。それによるとアメリカ・レーガン政権による挑発的な核戦争政策を前提として、「わが国の安全は、自由陣営の協調を強化し、日米安保体制の堅持と防衛力の整備である」として、日帝・支配階級の八〇年代政策である軍事大国化・改憲―戦争政策を自らの政策として明確に打ち出しています。さらに、同盟の「方針案」は、労戦「統一」について「労働組合主義・国際自由労連加盟を柱に同盟運動の発展と統一を結実させ、強固な全国的中央組織を確立させる」「同盟の組織拡大と民間先行による労戦『統一』によってすでに行き詰まっている官公労運動に衝撃を与え、官公労の民主化―全国統一をはかる」として、総評労働運動解体と同盟路線による労働戦線「統一」をはっきりと打ち出しています。

同盟・JC傘下の労働組合は、第一次石油ショック当時、経済恐慌におちいった財界・独占資本と一体となって〝兵器生産〟を要求し、つぎつぎと合理化攻撃を受け入れ、労資協調・企業防衛主義を徹底的に推進してきました。

そして今や防衛力の増強でわが国の安全を守る＝国家防衛主義を露骨に主張するに至っています。

合理化の最も進んだ「近代的」工場の実態

九三名の死者を出した夕張炭鉱爆発事故の際、マスコミは、「最も近代化された炭鉱でどうしてこんな大事故が起ったのか」と報道しました。しかしこのことは、逆に企業防衛・労資協調・合理化協力の結果、最も合理化の進んだ炭鉱における労働者の悲惨な実態でもあります。この大事故に対し、抗議のストライキすらも放棄し、「会社再建」を最優先させる労働組合の「方針」で、労働者の生命を守ることが出来ないのは当然です。

「炭労」という総評加盟組合にしてこのような状況なのです。ましてや右翼的労戦「統一」を推進する日産・電力・鉄鋼など同盟・JC傘下の「最も近代化された工場」における実態は、極めて劣悪なものであることは、はっきりしています。

労戦「統一」の先兵・塩路の引きいる日産労組では、定期大会で日の丸を揚げ、社長以下重役の訓示を受けているのです。そしてこの日産労組は単なる御用組合などではなく、「日産機動隊」と呼ばれているように労働組合役員が、組合員の動向を日常的に監視し、不平・不満・思想を探知し、必要に応じて組合本部に出頭させ、徹底的につるしあげ誓約書をとるなど、密告・スパイ的活動を網の目のように張りめぐらしているのです。

このように日産労組は、「新しい労働組合主義」のもとに会社にかわって労務管理を請け負い、組合員に対して徹底した企業意識とともに国家意識をうえつけることを目的意識的に遂行しているのです。

（次回へつづく）

千葉県労連主催 囲碁・将棋大会で健闘！

囲碁の部……（団体戦）準優勝
将棋の部……（個人戦）佐藤さん第3位

去る十月十七日動労千葉サークル協主催の第三回囲碁・将棋・クラス別大会にそれぞれ各クラスに於いて上位入賞者の中から、県労連主催の第九回囲碁・将棋大会に代表出場し、囲碁の部・団体戦に於いて堂々準優勝に入賞しました。

10月25日千葉県労連主催
第九回囲碁・将棋大会成績

＜囲碁の部・団体戦＞
優勝・松戸地区労、準優勝・動労千葉
三位・高教組

＜〃・個人戦＞
優勝・田辺丈統（高教組）
準優勝・諏訪光利（高教組）
三位・金成洋一（日立精機労組）

＜将棋の部・団体戦＞
優勝・川鉄労組、準優勝・国鉄労組
三位・丸山労組

＜〃・個人戦＞
優勝・加藤和夫（日立精機労組）
準優勝・緒形　勝（川鉄労組）
三位・佐藤　実（動労千葉）

以上、囲碁団体戦で準優勝、将棋の部個人戦で蘇我支部の佐藤実さんが三位に入賞する好成績をおさめました。